

日本語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語学概論	日本語の歴史	2	大木一夫	3	月	5	国語学概論
日本語学概論	日本語学入門	2	菊地 恵太	3	火	2	国語学概論
日本語学概論	方言研究	2	小林隆	4	月	5	国語学概論
日本語学概論	ことばのバリエーション	2	甲田直美	4	火	3	国語学概論
日本語学基礎講読	文文法と談話の接点	2	甲田直美	3	火	3	国語学基礎講読
日本語学基礎講読	古典語講読	2	大木一夫	4	月	2	国語学基礎講読
日本語学各論	日本語文法研究	2	大木一夫	5	木	2	国語学各論
日本語学各論	文章・談話の構造論： 談話標識を中心に	2	甲田直美	5	月	3	国語学各論
日本語学各論	方言学的日本語史研究	2	小林隆	6	火	2	国語学各論
日本語学各論	方言文法の記述と対照	2	小西いずみ	集中(5)			国語学各論
日本語学各論	現代日本語の構文と意味	2	天野みどり	集中(6)			国語学各論
日本語学講読	中世語研究	2	大木一夫	5	月	2	国語学講読
日本語学講読	言語変化の研究	2	大木一夫	6	木	2	国語学講読
日本語学演習	方言調査法	2	小林隆	5	火	2	国語学演習
日本語学演習	文章・談話の構造	2	甲田直美	6	月	3	国語学演習
日本語学演習	日本語の時間表現	2	津田 智史	5	水	2	国語学演習

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：大木一夫（教授）

講義コード：LB31503, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：日本語の歴史

2. Course Title (授業題目) : History of the Japanese language

3. 授業の目的と概要：

言語は変化する。これは言語がもつ本質的な性質である。そして、その変化の結果、古代の日本語が現在の日本語になったのである。それでは、日本語はどのようにうつきかわってきたのか。古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要について把握する。また、同時に言語の歴史をとらえる方法の概要を把握する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, you will learn about the outline of Japanese language history. You will also learn about an overview of how to reveal the history of the language. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。
- (2) 言語の歴史をとらえる方法について、説明できるようになる。
- (3) 日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

- (1) be able to outline the history of Japanese language,
- (2) be able to explain important matters of Japanese language history,
- (3) be able to explain how to reveal the history of language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：言語は変化する
- 第2回：日本語の文字の誕生
- 第3回：上代特殊仮名遣
- 第4回：古代日本語の発音をさぐる
- 第5回：日本語の文章の確立と古代語の語彙
- 第6回：古典文法の世界
- 第7回：近代日本語の発音へ
- 第8回：近代日本語文法の性格
- 第9回：上方語から江戸語へ
- 第10回：日本語表記改革への道
- 第11回：日本語語彙の近代化
- 第12回：新しい書きことばの成立
- 第13回：言語政策と現代日本語表記
- 第14回：試験と解説
- 第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』（ひつじ書房）、他に必要に応じてコピーを配布する。
参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：

テキストの指定範囲を読み、十分理解して参加する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：菊地 恵太 (非常勤講師)

講義コード：LB32206, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：日本語学入門

2. Course Title (授業題目)：An introduction to Japanese linguistics

3. 授業の目的と概要：

我々が当たり前のように使用している日本語がどのような特徴を持った言語であるか、また日本語を巡ってどのような現象が見られるのか、客観的に把握することを目的として、日本語の様々な側面について講義する。言語学・日本語学とはどのような学問かという点についても、理解を深められるようにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

1. 日本語を巡る様々な現象について、客観的に捉え、説明できるようになる。
2. 言語学・日本語学に関する基礎的な知識を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス/言語とは何か
2. 世界の言語と日本語
3. 音声学・音韻論 (1) 調音と音声記号
4. 音声学・音韻論 (2) 音韻とアクセント
5. 語彙論 (1) 意味と語彙体系
6. 語彙論 (2) 語構成
7. 文法と文法論
8. 文の単位と品詞
9. 文法範疇 (1) 格と態
10. 文法範疇 (2) テンス・アスペクト・モダリティ
11. 文字・表記 (1) 日本の文字体系
12. 文字・表記 (2) 漢字・異体字
13. 文字・表記 (3) 日本の文字施策
14. 日本語位相論
15. 試験・解説

8. 成績評価方法：

小テスト (授業内容の復習) (20%)

授業態度 (コメントペーパー) (20%)

期末試験 (60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない (プリント配布)。参考文献は授業内で適宜示す。

10. 授業時間外学習：

日本語を扱う授業であるので、普段から使っている言葉や文字に注意を払う癖をつけてほしい。ノート、メモ等を積極的に取り、毎回復習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：小林隆（教授）

講義コード：LB41503, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：方言研究

2. Course Title (授業題目) : Dialectology

3. 授業の目的と概要：

方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は日本語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。「方言と方言学」「方言の音韻・アクセント・語彙・文法」「方言の分類」「現代の方言」などの基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面もテーマとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

There are a lot of people who think a dialect isn't made the target of a study only in close existence. But a dialect is placed as one of a research field of study of Japanese language. I disqualify for such problem what kind of way is that it's here or that what happens to a Japanese dialect actually at this session for after all what a dialect is to study that. "Dialect and dialectology" "phoneme of a dialect, accent vocabulary and grammar" "classification of a dialect" "present-day dialect" the using flank of the dialect and the historical flank in addition to the basic contents of etc. are made a theme.

5. 学習の到達目標：

- (1) 方言に対する関心を高め研究対象として理解できるようにする。
- (2) 方言研究について概括的な知識を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) I'll can understand the interest to the dialect as a high subject of research.
- (2) I put on general knowledge about dialectology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 方言研究への導き
2. 方言の音韻 (1)
3. 方言の音韻 (2)
4. 方言のアクセント (1)
5. 方言のアクセント (2)
6. 方言の語彙 (1)
7. 方言の語彙 (2)
8. 方言の文法 (1)
9. 方言の文法 (2)
10. 方言の表現法 (1)
11. 方言の表現法 (2)
12. 方言の歴史と現在 (1)
13. 方言の歴史と現在 (2)
14. 方言の歴史と現在 (3)
15. 8. 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

筆記試験 (80%)・出席 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

日ごろ、自分および自分の周囲の人々の方言について観察することで、授業の内容について体験的・具体的に理解するように努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：甲田直美（教授）

講義コード：LB42301, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：ことばのバリエーション

2. Course Title (授業題目)：Variation in Japanese Language

3. 授業の目的と概要：

言語の持つ、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、研究の実例と分析方法について講義する。抽象的所有物ではなく、実際の場面で使用された、具体的使用文脈における言語を扱う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course introduces various topics in Japanese language variations such as regional dialect, diachronic change, speaker's regional or social background, and mode of discourse. Variety is a specific set of human speech patterns. Viewing language as a realization of language use, the focus of the course is on examining the interrelationship between language variety in sounds, words, grammatical features and people's language use in everyday life.

5. 学習の到達目標：

(1)我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。

(2)会話分析の基本的技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To develop student's ability to analyze language in everyday life

To develop student's ability to do Conversation Analysis (CA)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語資料の収集と作成
2. 言語資料の特性 1
3. 言語資料の特性 2
4. 言語資料の特性 3
5. 思考と言語
6. 書き言葉と話し言葉 1
7. 書き言葉と話し言葉 2
8. 物語と文化比較
9. 映像資料と音声資料、そして文字資料
10. 文法論と談話論の接点 1
11. 文法論と談話論の接点 2
12. 話者交替と参与構造
13. 会話の構造 1
14. 会話の構造 2
15. 研究の方法

8. 成績評価方法：

出席 10%、提出物 50%、期末レポート 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業内で資料プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：甲田直美（教授）

講義コード：LB32302, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学基礎講読】

1. 授業題目：文法と談話の接点

2. Course Title (授業題目)：The Interface of Sentence-grammar and Discourse

3. 授業の目的と概要：

談話研究に必要な文法論の知見について、論文購読を通して身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

文法論の基本概念について説明できるようになる。文法論の概念から、実際の談話分析での実例を検討する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

文を研究対象とした文法論の分野のうち、とくに談話分析に関連のある論文と書籍を購読し、検討する。

1. 言語単位、論文の読み方

2. 品詞分類

3. 対人関係の標識

4. モダリティ1

5. モダリティ2

6. 従属節の構造1

7. 従属節の構造2

8. 節単位

9. 談話分析1

10. 談話分析2

11. 会話分析

12. フィラー

13. 文法化1

14. 文法化2

15. 論文の書き方

8. 成績評価方法：

提出物（60%）、期末レポート（30%）、出席状況（10%）

9. 教科書および参考書：

資料は授業内で配布する。

10. 授業時間外学習：

毎回、事前に論文を読み、批判・検討した小レポートを提出する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：大木一夫（教授）

講義コード：LB41203, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学基礎講読】

1. 授業題目：古典語講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Japanese classics

3. 授業の目的と概要：

日本語学の基礎として、古典作品を読み、理解する手続きを学ぶ。また、そこにみられる日本語史上の問題について検討を加える。参加者は日本語史上の問題について調査・考察をおこない報告する。報告にあたっては、文献の調査・発表資料の作成など事前の準備が必要となる。作品は『源氏物語』。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, you will learn the procedures for reading and understanding classical works as the basis of Japanese linguistics and Japanese studies. The text is "The Tale of Genji". You are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

5. 学習の到達目標：

- (1) 古典語の文献資料を読むことができるようになる。とくに、変体仮名を読むことができるようになる。
- (2) 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。
- (3) 調査にもとづき報告し、議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

- (1) Be able to read materials in ancient Japanese languages. In particular, variant kana.
- (2) Understand the procedures for studying Japanese language history, and conduct research accordingly.
- (3) Be able to report and discuss based on the survey.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古典語と古典作品、『源氏物語』
3. 『源氏物語』を読む(1)
4. 『源氏物語』を読む(2)
5. 『源氏物語』と日本語史的分析(1)
6. 『源氏物語』と日本語史的分析(2)
7. 『源氏物語』と日本語史的分析(3)
8. 『源氏物語』と日本語史的分析(4)
9. 『源氏物語』と日本語史的分析(5)
10. 『源氏物語』と日本語史的分析(6)
11. 『源氏物語』と日本語史的分析(7)
12. 『源氏物語』と日本語史的分析(8)
13. 『源氏物語』と日本語史的分析(9)
14. 『源氏物語』と日本語史的分析(10)
15. 『源氏物語』と日本語史的分析(11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：青表紙本源氏物語『常夏』（新典社）。
参考書：大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019。
その他の参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：

テキストの指定範囲を読んで参加する。
日本語史的分析のための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：大木一夫（教授）

講義コード：LB54207, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目) : Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：

現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、モダリティ。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is modality.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
- (2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

- (1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,
- (2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,
- (3) be able to think grammatically and report and discuss the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：文法研究とは何か
- 第3回：先行研究の分析について
- 第4回：テーマ概説
- 第5回：研究史の分析(1)
- 第6回：研究史の分析(2)
- 第7回：研究史の分析(3)
- 第8回：研究史の分析(4)
- 第9回：分析実践(1)
- 第10回：分析実践(2)
- 第11回：分析実践(3)
- 第12回：分析実践(4)
- 第13回：分析実践(5)
- 第14回：分析実践(6)
- 第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：

- (1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：甲田直美（教授）

講義コード：LB51304, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：文章・談話の構造論：談話標識を中心に

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure : Discourse and Pragmatic Markers

3. 授業の目的と概要：

談話における談話標識の機能を探る。そのために、談話の構造論、談話標識の研究について理解する。

文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学習の到達目標：

(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声, イントネーション
3. ターン交替, TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス, 言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象 1
9. 会話に頻繁に見られる現象 2
10. 会話に頻繁に見られる現象 3
11. 会話に頻繁に見られる現象 4
12. 研究テーマの着眼点, レポートの書き方
13. 研究の進め方 1
14. 研究の進め方 2
15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：小林隆（教授）

講義コード：LB62207, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目)：study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要：

これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るといった問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの面で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにし、その地域差を明らかにするとともに、社会的な視点も交えて歴史的考察へと進んでいきたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Study of the dialectological Japanese history chooses a dialect as being able to come in sight, and to exceed the limit of the conventional Japanese history in the phase of the word and the side of the geographical expanse. Such purpose of a study and methodology are being explained and various problems are being considered through description of history in detail at this session.

Taking up an operating aspect of the word a study wasn't advancing up to now in particular and making the difference among regions clear this time as well as also including a social viewpoint, and to considering historically, I'd like to advance.

5. 学習の到達目標：

方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。また、身近な方言に対して、その運用面に対する観察眼を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Understand the study of the dialectological Japanese history. In addition, for familiar dialects, develop an observation eye for the operational aspects.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業への導入
2. 目的・方法・資料
3. オノマトペ (1)
4. オノマトペ (2)
5. 感動詞 (1)
6. 感動詞 (2)
7. 挨拶表現 (1)
8. 挨拶表現 (2)
9. 言語行動 (1)
10. 言語行動 (2)
11. 談話展開 (1)
12. 談話展開 (2)
13. 言語的発想法 (1)
14. 言語的発想法 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (80%)・出席 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』(岩波新書)のほか、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：小西いずみ (非常勤講師)

講義コード：LB98820, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：方言文法の記述と対照

2. Course Title (授業題目) : Descriptive and contrastive study on the grammar of Japanese dialects.

3. 授業の目的と概要：

日本語諸方言の文法を記述・対照するための観点・方法を学ぶ。語と形態素の認定についてのさまざまな立場をふまえたうえで、活用、終助詞、格と情報構造という3つのテーマを扱う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purpose of this course is to investigate perspectives and methods of descriptive and contrastive study on the grammar of Japanese dialects. After introducing fundamental knowledge about identifying words and morphemes, we treat three topics: (1) conjugation, (2) sentence-final particle, and (3) case and information structure.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本語諸方言の文法の諸相や研究方法についての基礎的な知識を得る。

(2) 上の知識を具体的なデータに適用し、分析・考察を行う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

(1) Learning fundamentals to study the grammar of Japanese dialects.

(2) Analyzing and investigating specific data applying the knowledge of (1).

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス、語・形態素の認定

第2回：活用 (1)

第3回：活用 (2)

第4回：活用 (3)

第5回：活用 (4)

第6回：終助詞 (1)

第7回：終助詞 (2)

第8回：終助詞 (3)

第9回：終助詞 (4)

第10回：終助詞 (5)

第11回：格と情報構造 (1)

第12回：格と情報構造 (2)

第13回：格と情報構造 (3)

第14回：格と情報構造 (4)

第15回：格と情報構造 (5)

8. 成績評価方法：

レポート (80%)、授業での参加態度 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

We don't use any particular textbook. References will be introduced during the course.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：集中 (6), 単位数：2

担当教員：天野みどり (非常勤講師)

講義コード：LB98821, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：現代日本語の構文と意味

2. Course Title (授業題目)：Construction and Meaning in Modern Japanese

3. 授業の目的と概要：

逸脱的特徴を持つ実例の意味解釈過程を考察し、構文という単位の持つ、全体的で抽象化された類型的意味に関する文法的知識の重要性を論じる。逸脱的特徴を持つ文は、ベースとなる構文の類型的意味を類推によって写像し、実際に出現した形式の意味に創造的な意味を重ね、文脈に合わせた柔軟な意味解釈がなされている。本講義では、自・他動詞構文、受益構文、尊敬語構文等、様々な逸脱的特徴を持つ文を考察対象とし、それらの意味がどのようなものと解釈されるか、その解釈過程に貢献する文法的知識とはどのようなものかを考える。実際に使用された文

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

- ・現代語文法研究の基礎として、内省判断調査と実例観察の2つの研究手法を身につける。
- ・構文に関する先行研究を整理し、自身の意見を述べることができる。
- ・構文に関する課題を設定し、調査・分析をすることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 構文研究の概観、本講義の見通し、重要概念の規定
2. 内省判断とは・実例観察とは
3. 逸脱的なノヲ文の考察「やろうとするのを手を振った」
4. 他動詞構文の様々
5. 逸脱的なノガ文の考察「技術優先だったのが背の高い選手が多い」
6. 自動詞構文の様々
7. 逆接・対比とは何か
8. 新しい接続詞「ソレガ」：格助詞と接続詞の機能の重なり
9. ノ節の用法の拡がりー主要部内在型関係節とは何か
10. 連体修飾節の様々
11. 逸脱的な受益文の考察「みなさん練習してもらわないと」
12. 受益構文の様々
13. 逸脱的な尊敬語構文の考察「お庭がきれいでいらっしやいますね」：無生物主語の容認度
14. 母語話者と日本語学習者の意味解釈の異なり
15. 本講義のまとめー構文の意味の類推拡張

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (コメントペーパー・課題提出) 50%、レポート 50%。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定無し。プリントを配布する。

参考書は以下の通り。

天野みどり (2002) 『文の理解と意味の創造』 笠間書院

天野みどり (2011) 『日本語構文の意味と類推拡張』 笠間書院

その他、参考書は授業時に適宜示す。

10. 授業時間外学習：

レポート作成のための準備はすべて授業時間外に行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：大木一夫（教授）

講義コード：LB51206, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：中世語研究

2. Course Title (授業題目) : Study of middle Japanese language

3. 授業の目的と概要：

中世後期の口語資料のひとつとして知られる「大蔵虎明本狂言集」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「大蔵虎明本狂言集」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものであるのかをさまざまな視点から検討しながら、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, while reading Kyogen, you analyze various aspects of the history and change of Japanese, especially middle Japanese language.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

- (1) be able to read materials in old Japanese languages.
- (2) be able to find problems in Japanese language history
- (3) be able to conduct surveys to grasp the history of Japanese language based on literature materials, and to make reports and discussions based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古辞書概説 (1)
3. 古辞書概説 (2)
4. 発表の方法
5. 研究発表 (1)
6. 研究発表 (2)
7. 研究発表 (3)
8. 研究発表 (4)
9. 研究発表 (5)
10. 研究発表 (6)
11. 研究発表 (7)
12. 研究発表 (8)
13. 研究発表 (9)
14. 研究発表 (10)
15. 研究発表 (11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019
テキスト（『狂言之本』大蔵虎明本狂言集）はコピーして配付する。
参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

第6 Semesterの「日本語学講読」（言語変化研究）も連続して履修すること。

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：大木一夫（教授）

講義コード：LB64208, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：言語変化の研究

2. Course Title (授業題目) : Study of language change

3. 授業の目的と概要：

日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史上におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, you will clarify the language changes that have occurred in the history of Japanese language, and analyze how they changed there and why. Students conduct surveys and analyses, publish and discuss the results.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

- (1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.
- (2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.
- (3) be able to conduct research to clarify language changes, and report and discuss based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 言語変化研究の現状(1)
3. 言語変化研究の現状(2)
4. 言語変化研究の現状(3)
5. 言語変化研究の問題意識(1)
6. 言語変化研究の問題意識(2)
7. 言語変化についての研究発表(1)
8. 言語変化についての研究発表(2)
9. 言語変化についての研究発表(3)
10. 言語変化についての研究発表(4)
11. 言語変化についての研究発表(5)
12. 言語変化についての研究発表(6)
13. 言語変化についての研究発表(7)
14. 言語変化についての研究発表(8)
15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：

日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。

日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

第5 semesterの「国語学講読」(中世語の研究) から連続して履修すること。

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：小林隆（教授）

講義コード：LB52210, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学演習】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目) : Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要：

方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations.

5. 学習の到達目標：

方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

A way of a dialect investigation is considered, and an investigation is planned and it's put into effect actually.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業
3. 方言的特徴の調べ方についての解説（1）
4. 方言的特徴の調べ方についての解説（2）
5. テーマ等設定に向けての作業（1）
6. テーマ等設定に向けての作業（2）
7. 中間報告（1）
8. 中間報告（2）
9. 調査票の作り方についての解説
10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法
11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方
12. 現地調査と結果の分析（1）
13. 現地調査と結果の分析（2）
14. 最終報告（1）
15. 最終報告（2）、授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート（50%）・出席（50%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

- ①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。
- ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：甲田直美（教授）

講義コード：LB61307, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学演習】

1. 授業題目：文章・談話の構造

2. Course Title (授業題目)：Discourse and Conversation Analysis

3. 授業の目的と概要：

これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。

I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、

II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、

III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course deals with the basic methods to analyze discourse and conversation.

I. Approaches to genre, register, studies on discourse markers, anaphora, ellipsis, connective words, participation framework, and turn construction unit

II. Methods for collecting data

III. Guidelines for assignment report writing

5. 学習の到達目標：

(1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。

(2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The goals of this course are to obtain basic methodology and skill to analyze discourse and conversation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データの種類とその扱い：分析の観点

2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差

3. テキストにおけるジャンル差

4. コーパス研究1

5. コーパス研究2

6. 文章における諸現象1

7. 文章における諸現象2

8. 会話における諸現象1

9. 会話における諸現象1

10. ドラマの構造分析

11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法

12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法

13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法

14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

8. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：津田 智史 (非常勤講師)

講義コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学演習】

1. 授業題目：日本語の時間表現

2. Course Title (授業題目)：Temporal Expressions in Japanese Linguistics

3. 授業の目的と概要：

日本語の時間表現に関する研究論文について、その内容を要約し、発表をおこなう。分析対象として、現代日本語だけでなく方言などもあつかう。また、必要により認知言語学、対照言語学、日本語教育学などの隣接分野の内容にもふれる。受講者全員で研究論文の内容について討議し、日本語の時間表現に関する理解を深めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course covers the temporal expressions in Japanese Linguistics. Students will read the research papers about it, and summarize papers. Not only modern Japanese, but also dialects, cognitive linguistics, and contrastive linguistics. All students will discuss the content and also develop their presentation skills.

5. 学習の到達目標：

- (1) 自分たちが使うことばについての基礎的知識を身に付ける
- (2) 語学的な見方・考え方はもとより、調査・分析の方法、また問題設定、解決能力を身に付ける
- (3) 適切な発表資料の作成方法、発表・プレゼンテーションの技法を身に付ける

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The primary goal of the class is for students to gain below.

- (1) To acquire basic knowledge of Japanese
- (2) To learn about the way to research and to solve problems
- (3) To develop the skills of how to create presentation materials, and the way of presentation

7. 授業の内容・方法と進度予定：

初回から数回は講義形式。その後、演習形式で受講者の発表を中心に進めていく。

1. ガイダンス
2. 日本語時間表現の概観
3. テンス概説
4. アスペクト概説
5. 時間表現に関する論文講読 (1)
6. 時間表現に関する論文講読 (2)
7. 時間表現に関する論文講読 (3)
8. 時間表現に関する論文講読 (4)
9. 時間表現に関する論文講読 (5)
10. 時間表現に関する論文講読 (6)
11. 時間表現に関する論文講読 (7)
12. 時間表現に関する論文講読 (8)
13. 時間表現に関する論文講読 (9)
14. 時間表現に関する論文講読 (10)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席および授業への参与状況 [30%]・演習発表 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

発表担当者は、担当となった論文とその内容に関わる用語等について、日本語学関連の辞書や関連論文・書籍から調べておく。受講者は、事前にその論文を読み、その内容についての疑問や意見等をまとめておく。日常のことばのなかにある日本語の時間表現について注意を払い、身近にある用例を採集する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

なし。

